

取組名称「野生鳥獣被害対策のスマート化」概要図（アイデア部門）



取組調書（アイデア部門）

地方公共団体名	鳥取市		
アイデア名称	野生鳥獣被害対策のスマート化		
連携自治体、企業、団体等	鳥取市鳥獣害対策協議会（鳥取市、J A、狩猟者、農業者団体）、ジビエ施設、鳥取市鳥獣減容化施設		
デジタルを活用したアイデアの概要（デジタルを活用したアイデアの全体概要と解決する個別課題の具体的な内容）	（種類） ^{（注）}	①	（左記が①の場合の分野） 農林水産業
	<p>【デジタルを活用したアイデアの全体概要】</p> <p>捕獲に係る狩猟者等の作業の省力化・効率化を図るため、捕獲通知機能を搭載したスマート檻わなを設置する。また、野生鳥獣捕獲管理システムを構築し、スマート檻わなの位置情報を活用した出没情報や被害対策の実施状況等をマッピングし、その情報をもとに効率的なわなの設置や対策の検討などを行い、野生鳥獣による農作物被害の削減を目指す。</p> <p>【実施に至る経緯・動機】</p> <p>農業の振興を図るためには、生産に係る機械のスマート化や農地の集約化などの様々な取組のほか、農業者が安心して生産活動を行うことができる環境を整えることも重要である。その1つとして野生鳥獣捕獲用わなを設置し、年々増加傾向であるイノシシやシカなどの野生鳥獣による農作物被害への対策を行っているが、狩猟者が行う捕獲状況の確認作業は、捕獲の有無にかかわらず行う必要があり負担が大きいことや、高齢化などにより狩猟者数が減少していることなど、本市農業を取り巻く環境は厳しいものとなっており、より効率的な対策を早急に講ずる必要がある。</p> <p>【解決する課題の具体的な内容】</p> <p>[課題1] 捕獲業務の効率化（見回りの効率化） [解決策1] 捕獲頻度が高い地域の檻わなにセンサーを設置し、捕獲した場合に狩猟者に通知することで、狩猟者の労力削減が期待できる。</p> <p>[課題2] 捕獲業務の効率化（行政手続きの効率化） [解決策2] 位置情報の登録や写真の添付がスマートフォンで可能なシステムとし、現在行っている市職員の現地立会いによる捕獲確認業務等をシステム上で行うことで、狩猟者及び職員の労力削減と業務の効率化が期待できる。</p> <p>[課題3] 出没地域の見える化による対策の効率化 [解決策3] 出没状況を地図上で見える化することで、捕獲数が多い地域への重点的なわなの配置など、より効率的な対策が可能となり、地域ごとに適切な対策を実施することで、捕獲数の増加による農作物被害の減少が期待できる。</p>		

鳥取市

デジタルの活用により目指す成果（数値）	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	システム利用者数（人）					50	60
	イノシシ・シカ捕獲頭数（頭）	5,862	5,210	5,250	5,300	5,400	5,600
	農作物被害額（千円）	31,829	25,085	25,000	25,000	22,000	20,000
※R2 は実績、R3 以降は見込							
本アイデアの特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点	<p>捕獲通知機能の導入により、狩猟者が行う捕獲確認作業に要する労力・時間の削減が期待できる。また、システムで一元管理された野生鳥獣の出没情報を情報提供することで、捕獲数の増加につながる、より効率的なわなの設置が期待できる。</p>						
今後の展望	<p>令和6年度の導入を目指してシステム構成の検討や導入地域の選定を行う。</p> <p>このシステムの導入により捕獲数を増加させるとともに、鳥取市鳥獣減容化施設やジビエ施設などと迅速に情報を共有することで、計画的な減容化処理やより新鮮で安全な食肉をジビエに活用することが期待できる。</p>						

注： 以下の①または②のいずれかを選択

- ① デジタルの活用により、次の個別課題を実際に解決し、住民の暮らしの利便性と豊かさの向上や地域の産業振興につながっているもの。
（・医療 ・教育 ・子育て ・物流 ・交通 ・農林水産業 ・中小企業 ・観光 ・防災）
- ② 高齢者、障がい者などデジタルに不慣れな人々がデジタル機器・サービスの利用方法を学ぶことができる環境づくりを既に進めるなど、あらゆる人がデジタル化の恩恵を享受できる、「誰一人取り残されない」社会の実現に寄与しているもの。